

3 もがみオーガニックビレッジ協議会（山形県新庄市）

協議会の構成員

山形有機農業の匠、地域有機農業者 4 名、実需者 1 名、新庄市農林課 1 名

生産概要（令和 3 年度）

■取組面積

有機農業取組面積：14.9ha

うち有機JAS取得面積：12.2ha

■有機農業者数：15名

■栽培品目：米、大豆、野菜等

■構成員の主な取引先：オイシックス・ラ・大地等

成果（令和 3 年度）

1. 有機農業の拡大

・有機農業取組面積の拡大：1.2 ha（令和 2 年度 13.7ha ▷ 令和 3 年度 14.9ha）

2. 経営の向上

・販売先の多角化・販売額の増加で経営の向上が見込まれた。

取組のポイント（令和 3 年度）

■有機栽培講習会の実施

・有機栽培実践者、新たに有機栽培を始めたい農業者等を主たる対象として栽培技術を学ぶ講習会を実施。講習内容は、有機農業者にとって有益であったほか、慣行農業者にとっても有機への転換に関心を持たせる有意義な内容であった。

■有機野菜ふりかけの試作

・有機野菜を粉末化し、有機野菜ふりかけの試作を行った。配合など工夫し試食を繰り返して評価の高いものを作ることができた。しかし、原料コストが高くなってしまうことから、B 品（規格外品）の野菜を活用する等、コスト削減の工夫が課題となった。

■地元義務教育学校での有機給食試食会の実施

・12月8日の有機農業の日にちなみ、地元の小中一貫校で有機給食の試食会を実施。当日は5年生に有機農業の話をし、子供達に関心を持ってもらうことができた。残食がゼロだったことから、学校側からも驚きの声が聞かれる試食会だった。

■もがみオーガニックフェア2021の開催

・有機農業や食に関する有識者である吉田俊道氏・国光美佳氏の講演会及び有機給食導入に向けた意見交換会を実施。農協関係者・流通関係者・学校給食関係者や市議員等も参加し、課題や必要性を参加者で共有することができた。



私たちは、人と自然が調和した持続可能なオーガニックビレッジを目指しています。豊かな自然・豊かな資源を次世代に伝え、そこに暮らす人々が、健康で元気で生きる場所。ローカルだけど、ユニークで・フェアで・ファンがいる。「ないもの」ではなく「あるもの」を活かした未来をつくります！！

問い合わせ先
もがみオーガニックビレッジ協議会
info@nosya.net

東北農政局生産部生産技術環境課
022-221-6214

4 SOSA Organic community (千葉県匝瑺市)

協議会の構成員

匝瑺市 会員9名（有機農業者、匝瑺市、NPO法人SOSA PROJECT）

生産概要（令和3年度末）

- 取組面積
有機農業取組面積：23ha
うち有機JAS取得面積：19ha
- 有機JAS認証 栽培品目：水稻、大豆、麦 等
- 有機JAS認証農産物 主な取引先：千葉県内酒蔵・福祉事業所 有機豆腐屋
- 有機農業者数：9名

成果（令和3年度）

1. 有機農業の拡大
・有機農業取組面積の拡大：18.5ha（令和2年度）→19ha（令和3年度）
2. 経営の向上
・GAPについて理解を深め、生産・出荷等の効率化を図った。

取組のポイント（令和3年度）

■ 学校給食への有機米・味噌の納入

- ・匝瑺市学校給食センターに、試験的に有機米を納入(1回)。
有機大豆使用の味噌と合わせて献立としたほか、
学生と保護者向けに有機栽培のPR映像を作成・放映し
有機農業の理解促進と合わせた食育を行った。

■ 講演会を開催

- ・保育園での有機農産物の使用をしている先生、給食の栄養について各地で講演している先生をお呼びして、
講演会を開き有機農産物の消費拡大に向けた理解を深めた。

■ 千葉県いすみ市への視察

- ・市議、市内関係部所の方といすみ市に視察をし、
いすみ市の有機米の取り組み、米・野菜の生産者のお話を伺い、
更なる学校給食への有機農産物の活用に向けた検討につなげた。



地域の農業者や住民、食品加工業者、販売業者との連携の他、再生可能エネルギー事業、福祉事業等、農業以外の分野とも連携し、有機的な活動展開に取り組んでいます。

SOSA Organic community
代表 佐藤 真吾

連絡先 sosa.organic.community@gmail.com

5 千葉県有機農業推進協議会（千葉県全域）

協議会の構成員

農事組合法人さんぶ野菜ネットワーク、株式会社シェアガーデン、株式会社オーガニックパートナーズ、株式会社自然農法販売協同機構、オーガニック・エコ農と食のネットワーク、株式会社福島屋、イーサポートリンク株式会社、一般社団法人フードトラストプロジェクト、木更津市、山武市

生産概要（令和3年度末）

- 取組面積
有機農業取組面積：105.0ha
うち有機JAS取得面積：46.5ha
- 有機農業者数：75名
- 栽培品目：人参、米、里いも、れんこん等
- 有機農産物の出荷量：約1,000t
- 構成員の主な取引先：30箇所
(生協、スーパー、農協直売所 等)

成果（令和3年度）

木更津市において有機米の取り組みが拡大され有機農業者が増加した。

- ・ 有機農業者数の増加：67名 → 75名
- ・ 有機農業への理解が深まり、有機JAS取得農業者が増加した。
- ・ 有機JAS取得農業者数の増加：39名 → 40名



取組のポイント（取組期間：令和3年度～）

■ 有機農業の新規参入者の増加に向けた取組

- ・ コロナ禍のためオンラインによる研修会に取り組んだ。内容としては新規就農者及び転換者等を対象に、**栽培技術指導及び農業経営、有機JAS認証に関する研修会**を実施した。
- ・ 昨年に引き続き、南房総市で有機農業への新規取組者を掘り起こすために研修会を開催した。

■ 有機農産物の安定した供給体制の構築に向けた取組

- ・ オーガニックライフスタイルE X P Oへ出展し、有機農業者のアピールを行った。有機農業者とバイヤーのマッチングを行った。展示会やマッチングに参加することで、有機農業者同士の横のつながりもでき、情報交換できた。
- ・ 出荷効率化を目的に先進事例の視察を行う予定だったが、コロナ禍のためオンラインでの講演会を行った。
- ・ 構成員会議を4回開催し、コロナ禍での取組方法を協議するとともに、進捗状況の共有や情報交換を行った。



問い合わせ先：
千葉県有機農業推進協議会
03-6821-4219

関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

6 小田原有機の里づくり協議会（神奈川県小田原市）

協議会の構成員

小田原市、小田原有機農法研究会、農事組合法人小田原産直組合、
NPO法人あしがら農の会、一般社団法人MOA自然農法文化事業団、
NPO法人小田原食とみどり、小田原家庭菜園研究会

生産概要（令和3年度）

■取組面積

有機農業取組面積：113ha

うち有機JAS取得面積：13ha

■栽培品目：キウイフルーツ、水稻、野菜等

■構成員の主な取引先：生協、スーパー、食品宅配等

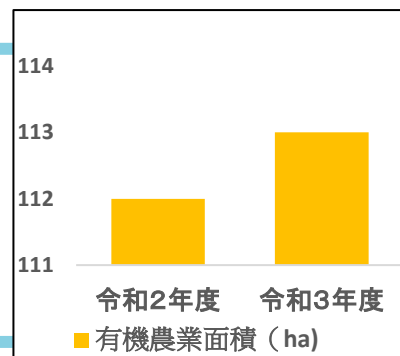
成果（令和3年度）

1. 有機農業の拡大

- ・有機農業取組面積の増加：112ha → 113ha

2. 経営の向上

- ・有機キウイについて大手スーパーへの販路が確保でき、経営の向上が見込まれた。（年間約3トンの出荷）



取組のポイント（令和3年度）

■有機農業者の育成及び技術の向上に向けた取組

- ・研修ほ場を設置して、新規就農者たちがキウイフルーツ、みかんなど様々な作物を栽培し、生育状況等の違いについて意見交換しながら有機資材、緑肥などを使った栽培方法を学ぶとともに、有機の育苗技術については、自然農法国際研究開発センターによる指導を受けながら、有機農業者を育成。



大都市圏から近く、自然環境にも恵まれた中で取り組んでいます！

問い合わせ先：
小田原市役所経済部農政課
0465-33-1494

関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

7 さがみサステイナブルコミュニティ (神奈川県相模原市／愛川町)

協議会の構成員

生産者11名、海老名畜産（有）、合同会社 旬彩坊、やさいバス（株）
相模原市、愛川町、県央愛川農業協同組合

生産概要（令和3年度末）

- 取組面積
有機農業の取組面積：8.5ha
うち有機JAS取得面積：5.0ha
- 有機農業者数：7名
- 栽培品目：人参、里芋、ズッキーニ、ルッコラ等
- 有機農産物の生産量：90.0t
- 構成員の主な取引先：
生協、スーパー、学校給食、食品宅配、産直EC等

成果（令和3年度）

- ・有機農業面積の拡大：8.0ha → 8.5ha
- ・有機JAS取得面積の拡大：4.5ha → 5.0ha
- ・有機農産物生産量の拡大：80.0t → 90.0t

取組のポイント（令和3年度）

相模原市、愛川町ともに農業従事者の高齢化が進むなか、新たな担い手確保の手段として有機農業を広く提案していくため、有機への転換を促す土づくり技術実証、転換実証等をおこなった。

●栽培技術力・経営力向上のための取組

- ・堆肥育土研究所 橋本力男氏による技術講習会を実施。事前に構成員である「海老名畜産」の畜糞堆肥製造を視察の上、講習会においてもケーススタディとして取り上げる。また講習内容を踏まえて構成員「相模原大ちゃんの野菜」堆肥場にて、泉橋酒造の米糠を用いたのボカシ肥作りや地域資材を用いた堆肥づくりなどの指南をおこない、地域内資源循環を可能にする堆肥技術についての底上げをおこなった。
- ・happy villedge farm 石綿 薫氏を講師に迎え、育土と作物生理の基本を学ぶ講習会を実施した。この結果、構成員の生産者（慣行農業）2名が、一部圃場の有機転換参入に意欲を持ち、転換に向けた取り組みを開始した。
- ・川田研究所 川田肇氏の指導で技術実証を実施。実証圃場にて緑肥等を用いた土づくりをおこない土壌分析し、全炭素全窒素を量り、前後の変化を検証したほか、各構成員の土壌分析を実際の圃場でどのように生かすのかを検討し作物の秀品率を上げていくことで生産・出荷の効率化を図った。この結果、構成員の生産者（慣行農業）1名が、勉強会等への参加を通じて有機生産技術に関心を高め、緑肥による土づくりを開始した。



さがみサステイナブルコミュニティは生産→輸送⇒販売を一貫して行い、生産力の向上と担い手確保、地域に根差す農業の存在をアピールしていきます。

問い合わせ先
さがみサステイナブルコミュニティ 事務局 間宮
toshimasa.mamiya@gmail.com

関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

8 やまなし有機農業連絡会議 生産・利用拡大プロジェクトチーム（山梨県）

協議会の構成員

やまなし有機農業市民の会、八ヶ岳有機農業者協会、八ヶ岳やさいクラブ、牧丘町有機農業研究会、パルシステム山梨、山梨市、北杜市、山梨県

生産概要（令和3年度末）

■取組面積

有機農業取組面積：16.6ha

うち有機JAS取得面積：12.0ha

■有機農業者数：7名

■栽培品目：バレイショ、ダイコン、ネギ、サツマイモ、ブドウ、キウイフルーツ等約30品目

■有機農産物の生産量：108トン

成果（令和3年度）

1. 有機農業の拡大

- ・有機農業者数の増加：6名（令和2年度）→7名（令和3年度）
- ・有機農業取組面積の拡大：14ha（令和2年度）→16.6ha（令和3年度）

2. 経営の向上

- ・有機農産物の生産量：102トン（令和2年度）→108トン（令和3年度）

取組のポイント（令和3年度）

■有機農業の普及・拡大に向けた取組

- ・北杜市小淵沢の野菜畑と山梨市牧丘の果樹園で、定期的に畑の生き物調査を開催し、有機農業は環境と生き物にやさしい農業であることへの理解を深める活動をした。
- ・有機野菜の学校給食への納入について、山梨県内の先進事例について調査を行うとともにこれまで利用実績のなかった山梨市と話し合いを行い、納入条件を満たす目処がたったことでネギ、サツマイモ、ダイコン、ニンジンなどの納入が実現。

■有機農業者の栽培技術・経営力向上等に向けた取組

- ・山梨市牧丘と北杜市小淵沢に研修ほ場を複数箇所設置し、研修会を通年で開催し生産性・栽培技術の向上について検討し経営の向上を図った。



畑の生き物調査などの活動を通して環境と生き物にやさしい農業への理解者を増やし、有機農業を拡げていきたいと思ひます。

問い合わせ先

やまなし有機農業連絡会議
生産・利用拡大プロジェクト
チーム事務局（山梨県農政部農
業技術課）

055-223-1618

関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0448

9 とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会（富山県）

協議会の構成員

富山県農業協同組合中央会、全農とやま、富山県農林水産部、富山市、氷見市、滑川市、南砺市、舟橋村、入善町、朝日町、（公社）富山県農林水産公社、富山中央青果株式会社、丸果株式会社、MOA自然農法富山県連合会、越中土徳の会、氷見有機の里づくり協議会、（株）和田農産、富山県有機農業研究会、（有）土遊野、ログログファーム、どろんこ農園

生産概要（令和3年度）

■取組面積

有機農業の取組面積：216ha
うち有機JAS取得面積：122ha

■有機農業者数：75名

■栽培品目

水稻、大豆、そば、ハトムギ
野菜（サトイモ、キャベツ他）等

成果（令和3年度）

1.有機農業の拡大

- ・有機農業の取組面積 207ha（令和元年度） → 216ha（令和3年度）
- ・有機農業への新規就農者及び転換者数 7名（令和3年度）

2.経営の向上

- ・研修会等を通じて生産者の技術力の向上が見込まれる。

取組のポイント（令和3年度）

県段階の「とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会」と、地域段階の有機農業団体（5団体）が連携しながら、有機農産物の生産拡大に向けた取組を実施

■有機栽培技術研修会の開催

- ・有機生産ほ場の生産力向上を目指し、栽培技術研修会を開催。土壌分析結果に基づく施肥設計や、植物生理に基づいた有機栽培理論への理解を深めた。



栽培技術研修会

■新規就農者への栽培指導

- ・新規に有機農業に取り組む農業者に対して、土壌分析や収穫した農産物の栄養評価分析に基づく施肥設計の検討・現地指導を実施し、当該農業者の栽培技術向上につなげた。



新規就農者への現地指導

■消費者との交流促進の取組

- ・消費者に有機農業のことを知ってもらい、有機農産物等の価値を理解してもらうため、県民向けの食イベントにブースを設置し、生産者自らが有機農産物の生産活動のPRを実施した。



消費者交流（食のイベント）



協議会活動を通じて、
富山県の有機農業・エコ農業を推進
します。

問い合わせ先：
富山県農林水産部農業技術課エコ農業推進係
076-444-8292

〔 北陸農政局生産部生産技術環境課
076-232-4893 〕

10 なかのと有機栽培研究会（石川県中能登町）

協議会の構成員

農業者 13 名、能登わかば農業協同組合、石川県中能登農林総合事務所担い手支援課、中能登町農林課

生産概要（令和 3 年度）

■ 取組面積

有機農業取組面積：7.6ha

うち有機JAS取得面積：2.0ha

■ 有機農業者数：23名

■ 栽培品目：米、パプリカ、トマト、
ごぼう、カブ等

成果（令和 3 年度）

1. 有機農業の拡大

- ・ 有機農業への新規就農者及び転換者の増加：1 名（令和 2 年度）→ 5 名（令和 3 年度）

2. 経営の向上

- ・ 化学的・論理的に有機農業を学び、農業者の技術と生産物の収量・品質の向上が見込まれる。

取組のポイント（令和 3 年度）

■ BLOF理論の学習会及び栽培研修会の開催

- ・ BLOF理論について理解を深めるため、学習会を実施し、農業者の技術向上と情報交流の場をつくった。
- ・ 栽培研修会では、BLOF理論に基づき土壌分析結果から施肥設計を行い、様々な実践的課題に対し講師から丁寧な説明を受け、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。



■ 学校給食への有機ニンジン（人参）の納入とアンケート調査実施

- ・ 学校給食担当課及び栄養士に野菜の栄養価の低下対策として、BLOF理論の重要性を理解してもらい、学校給食へ有機カラーニンジン（人参）を納入し、子供たちの様子をヒアリング調査した。子供たちからは、好感触を得ることができ、学校給食便りに掲載し保護者への配布を行った。



栄養価の高い
美味しい有機栽培の農産物を
能登から発信！！

問い合わせ先
なかのと有機栽培研究会
skhpd007@ybb.ne.jp

北陸農政局生産部生産技術環境課
076-232-4893